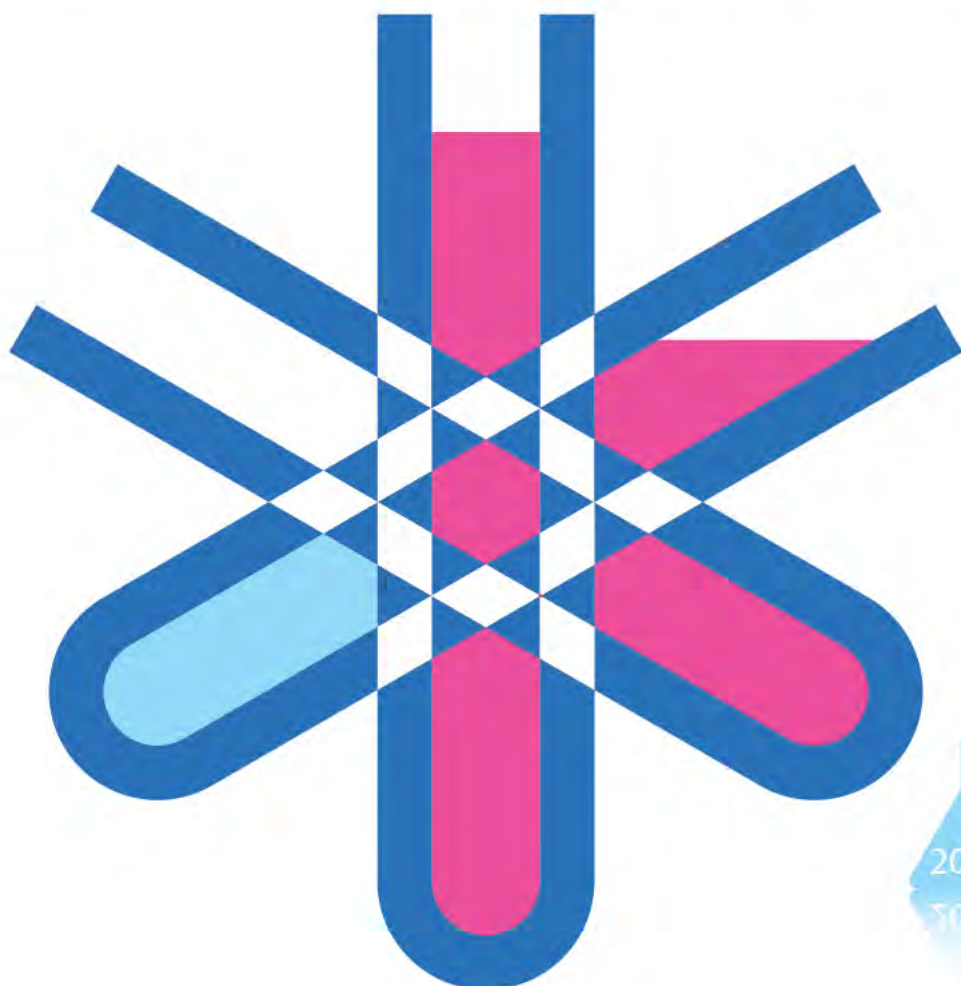


検査情報月報



2011
5月

横浜市衛生研究所

平成 23 年 5 月号 目次

【トピックス】

- A 群溶血性レンサ球菌の T 型別について 1
- 平成 22 年度 食品中異物検査（昆虫類）のまとめ 2

【感染症発生動向調査】

- 感染症発生動向調査委員会報告 平成 23 年 4 月 4

【情報提供】

- 衛生研究所 WEB ページ情報（平成 23 年 4 月分） 9

A群溶血性レンサ球菌のT型別について

(病原体サーベイランスのまとめ)

A群溶血性レンサ球菌感染症は、五類感染症(劇症型溶血性レンサ球菌感染症は全数把握疾患、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は小児科定点把握疾患)の対象疾患であり、また病原体サーベイランスの対象となる疾患になっています。これら疾患の起因菌は、*Streptococcus pyogenes* であり、劇症型は手足の筋肉等の軟部組織に壊死性の炎症を伴う重篤な症状を呈します。咽頭炎は主に小児に多く見られ、その他に扁桃炎や猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱等を発症することがあります。

当所では、病原体サーベイランス事業として小児科定点から送付された咽頭炎症状患者の咽頭ぬぐい液からA群溶血性レンサ球菌の分離をおこない、分離された株についてその疫学的指標であるT型別¹⁾をおこなっています。

今回は2010年1月から12月までの1年間に分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果を報告します。2010年1月から12月に受付けた92検体から分離された株は計67株で、例年と変わらずT1型、T28型、T12型が多く検出されました(表)。

これらの結果は、衛生微生物協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンターに報告しており、全国のデータがまとめられて国立感染症研究所のホームページで報告されます²⁾。

表 病原体サーベイランス検体から分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果(2010年1～12月)

菌型	T1	T4	T6	T12	T13	T25	T28	TB3264	型別不能	計
検体数	26	3	1	11	1	3	15	3	4	67

¹⁾ T型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在するT蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。







²⁾ 国立感染症研究所 第30回衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンター会議資料
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

【 検査研究課 細菌担当 】

平成22年度 食品中異物検査(昆虫類)のまとめ

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受け、昆虫類を中心に食品に混入した異物について検査を行っています。平成22年度の検査実績は、12検体でした。

依頼された12検体のうち昆虫類は9検体で、チョウ目3検体、コウチュウ目2検体、ゴキブリ目2検体、ハエ目1検体、ハチ目1検体でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
黒糖に混入	 幼虫、乳白色、約10~12mm	ノシメダラメイガ (チョウ目)	幼虫は米などの穀物、ナッツ、チョコレート、乾燥果実、豆菓子など多くの貯蔵食品、乾燥食品を食害する。関東付近では、4月上旬に第一世代目の羽化がはじまり、通常年3~4世代と考えられる。
すりゴマに虫が混入	 幼虫、乳白色、約8mm	ノシメダラメイガ (チョウ目)	世界共通種で、広く日本に分布する。 ノシメダラメイガ(のしめまだらめいが)の名は、成虫の翅の模様が着物の熨斗目模様 に似ていることからこの名がついた。
大紅荳椒干(唐辛子)の中にガと思われる虫が混入	 幼虫、乳白色、約10mm	ノシメダラメイガ (チョウ目)	 成虫、茶褐色、約7mm  【参考】熨斗目模様
自宅で調理したハンバーグを食べた後、幼虫を発見した	 幼虫、乳白色、約2mm	タバコシバンムシ (コウチュウ目)	食品を加害するのは幼虫のみで、その食性は広く、被害食品の種類は100種をこえる。穀類の粉、香辛料、パン、菓子類、コアなど多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫。年2~3回発生する。日本では全国各地に分布する。
購入した菓子パンを食べていたときに、練りこまれた状態の虫を発見した	 成虫、茶褐色、約3mm	ノコギリヒラタムシ (コウチュウ目)	穀類の全粒を加害することはできず、碎粉に発生する。また、小麦粉などの完全粉も好まない。穀類の破片の混ざった粉やビスケットなどにしばしば大発生する。年3~4回発生し、日本では全国各地に分布する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入した弁当を食べていて虫を発見した		チャバネゴキブリ (ゴキブリ目)	体は褐色で前胸背に1対の黒状紋がある。代表的な屋内ゴキブリで、ビル、レストラン、病院など暖房設備が完備された建築物に特に多く見られる。日本では全国各地に分布する。
ふりかけに虫が混入		ゴキブリ科の一種 (ゴキブリ目)	屋内で見られるゴキブリは雑食性で、植物性、動物性の食品はたいてい食べる。成虫、幼虫ともに日中は屋内の潜伏場所で過ごし、夜になると餌と水を求めて活動する。
お弁当に混入していた		ハエの卵 (ハエ目)	ハエ類はあらゆる動植物質から発生する。厨芥、排水管や下水、動物の糞など、食性は多様である。
即席きもすいに虫が混入		アシトコバチ科 の一種(ハチ目)	寄生性のコバチ類の中では比較的大型である。チョウ目(ガ・チョウ類)、コウチュウ目、ハエ目の蛹に寄生する。
飲食店でレバニラ炒めを食べている最中に気がついた		昆虫類等の脚ではない	昆虫類の脚にみられる、節や毛がみられなかった。
購入した小女子の佃煮に虫の脚のようなものが混入していた		昆虫類等の脚ではない(小女子佃煮の一部)	小女子の皮と推定される光沢部分や斑紋がみられた。
貝を食べた後、歯を磨いていたところ、寄生虫のようなものに気がついた		寄生虫ではない	多くの魚類寄生虫にみられる環状構造ではなかった。

感染症発生動向調査委員会報告 4月

《今月のトピックス》

- 東京都で麻しんの報告数が増加しています。横浜への波及が心配されます。
- 風しんの報告が4例見られました。4例とも成人例でした。
- インフルエンザによる学級閉鎖が4月に2件見られました。流行の状態は横ばいです。

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

1例の報告がありました。感染源は不明です。感染経路については不明です。腸管出血性大腸菌感染症の発生時の対応については、横浜市衛生研究所HPをご参考ください。

横浜市衛生研究所HP <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/infc-o157-guide.html>

<マラリア>

1例の報告がありました。熱帯熱マラリアでした。ギニア共和国での感染と思われます。世界的に耐性マラリアが問題になっています。治療薬については、**熱帯病治療薬研究班HP**をご参考ください。

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/parasitology/orphan/HTML/page5.html>

マラリアについては、**国立感染症研究所HP**をご参考ください。

http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k05/k05_04/k05_04.html

<麻しん>

4例の報告がありました。麻しんの排除を目指して、麻しん患者が減少していくなかで、検査診断は非常に重要です。麻しん特異的IgM抗体検査やペア血清による特異的IgG抗体検査等抗体検査が多く用いられていますが、疫学調査のためには、ウイルスの遺伝子型等性状が把握できるウイルス分離や、PCRのような遺伝子診断が望ましく、検査のためには、感染の早い時期に血液、咽頭ぬぐい液、尿といった検体を採取することが求められます。麻しん排除のためには全ての年齢で95%以上の抗体保有率が求められますが、平成21年度の全国感染症流行予測調査ではこのレベルに達していないのは、0～1歳を除くと、10歳、15歳のみであり、Ⅲ期、Ⅳ期の予防接種の効果が現れています。

麻しんについては、**横浜市衛生研究所HP**をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/measle1.html>

市内の麻しん届出数は、平成20年は1,485例、平成21年43例、平成22年32例でした。平成19年、平成20年と、東京都を発端として、首都圏に広く麻しんの流行が見られ、平成20年には全国麻しん届出数は11,015例でしたが、平成21年には739例、平成22年には455例と続けて減少しました。日本国内の状況では、今年第16週までに146人の患者が報告されています。東京都が51人と約3分の1を占めています。今年になって、東京都で検出された麻しんウイルスは24件(D4型16件、D9型8件)で、D4は欧州から(1月)、D9は東南アジアからの輸入例でした。現在、渡航歴の無い患者からも検出されていて、輸入例からの広がり危険が懸念されます。横浜市への影響も、監視していく必要があります。東京都の麻しんウイルス検出状況につきましては、**国立感染症研究所HP**をご参考ください。

<http://idsc.nih.go.jp:80/iasr/rapid/pr3752.html>

<風しん>

4例の報告がありました。4例とも成人例です。平成22年、風しんの届出は、全国では89例、横浜市内は3例でした。今後の横浜市の風しん発生状況に注意が必要です。

風しんについては、**横浜市衛生研究所HP**をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

<HIV感染症>

4例の報告がありました。2例は男性の同性間性的接触によるものです。2例は女性の異性間性的接触によるものです。全国でも数年来、男性の同性間性的接触での感染が多く見られています。

HIV感染症については、**横浜市衛生研究所HP**をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hiv.html>

定点把握疾患

平成23年3月21日から4月24日まで(平成23年第12週から第16週まで。ただし、性感染症については平成23年3月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成23年 週一月日対照表

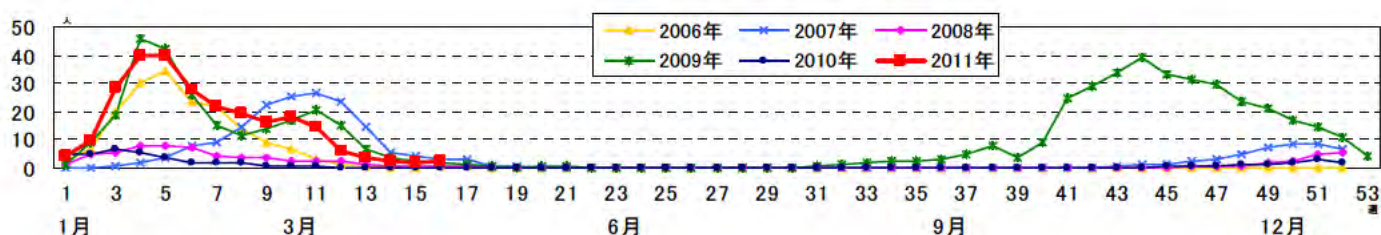
第12週	3月21～27日
第13週	3月28～4月3日
第14週	4月4～10日
第15週	4月11～17日
第16週	4月18～24日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<インフルエンザ>

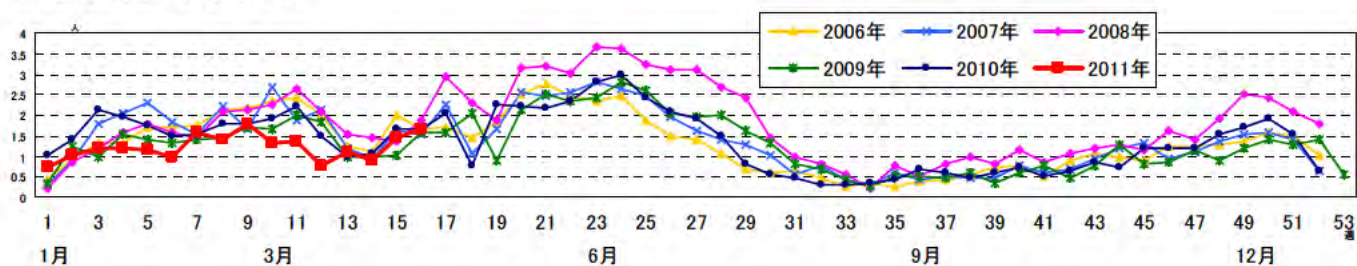
第16週は定点当たり2.35で、第15週の定点あたり2.04に比べ微増しています。全国7.56、神奈川県3.41、東京都5.43です。全国の第15週は6.42であり、全国的にも広く微増しています。長野県25.51、福井県19.47、石川県17.29が高めです。市内行政区別では瀬谷区8.50、金沢区3.57、戸塚区3.56が高く、年齢層では9割が20歳未満です。4月に入り、市内ではインフルエンザによる学級閉鎖が、2つの小学校から報告されていることもあり、引き続き低年齢の集団感染には注意を要します。迅速キットの内訳はA型17件、B型230件です。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第16週は定点あたり1.68です。全国2.33、神奈川県1.83、東京都2.76です。行政区別では、瀬谷区

6.25、港北区3.29、緑区3.25、泉区3.00が高めです。例年初夏からの流行が見られるので、今後の動向に注意が必要です。

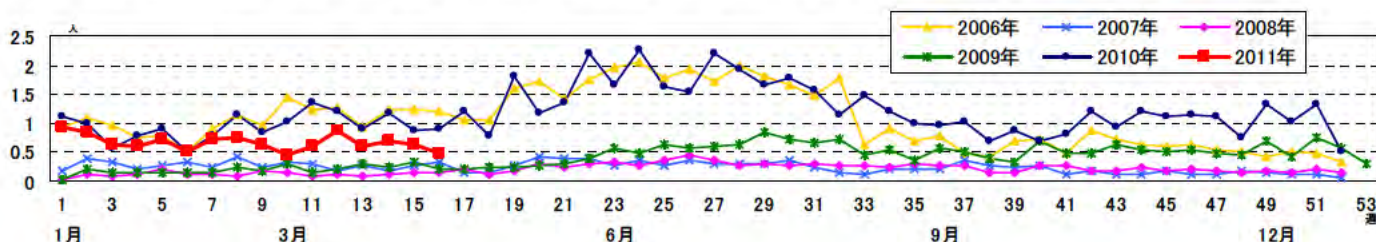


< 感染性胃腸炎 >

第16週は定点当たり6.41です。全国9.30、神奈川県6.72、東京都9.17です。鹿児島県18.18、富山県17.59、愛媛県17.41、福井県17.27、大分県15.69が比較的高めです。行政区別では神奈川区14.50、戸塚区11.80が高めです。なお、4月の定点からの検出状況は、3検体中A群ロタウイルス2件でした(ノロは検出なし)。

< 流行性耳下腺炎 >

第16週は定点当たり0.49です。全国は0.78、神奈川県0.39、東京都0.23です。2010年は市内では5年ぶりの流行の年となりましたが、今年に入り漸減し、落ち着いてきています。



< 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。3月は性器クラミジア感染症が男性19件、女性13件。性器ヘルペス感染症が男性5件、女性7件。尖圭コンジローマが男性6件、女性2件。淋菌感染症が男性6件、女性1件でした。

< 基幹定点週報 >

細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告は、今年に入って1件もありません。マイコプラズマ肺炎は、第4～6週に計4件ありました。

< 基幹定点月報 >

3月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症が男性13件、女性8件(計21件)、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が0件、薬剤耐性緑膿菌感染症が男性1件(計1件)、薬剤耐性アシネトバクター感染症が0件でした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っていません。

<ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点52件(鼻咽頭ぬぐい液41件、ふん便・直腸ぬぐい液11件、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液3件、髄液2件、ふん便1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い例を含む)16人、胃腸炎11人、下気道炎10人、上気道炎10人、発疹症3人、アデノウイルス感染症2人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、インフルエンザ、下気道炎、胃腸炎、不明熱各1人でした。

5月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者10人、下気道炎患者2人、上気道炎患者1人、胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルスB(以下inf B)型、インフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスAH3(以下inf AH3)型、アデノウイルス感染症患者2人とインフルエンザ患者1人からアデノウイルス(2型、6型と型未同定各1例)、胃腸炎患者2人からワクチン由来のポリオウイルス1型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からinf B型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、下気道炎患者3人からヒトメタニューモウイルス、小児科定点のインフルエンザ患者2人からinf AH3型とinf B型が各1例、上気道炎患者2人からアデノウイルス3型、別の上気道炎患者2人からライノウイルス、胃腸炎患者2人からロタウイルス、発疹症患者1人からヒトパルボウイルスB19型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

4月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体はありませんでした。基幹定点からは菌株受付が2件、定点以外の医療機関等からは3件あり、腸管出血性大腸菌、*Salmonella Infantis.* がそれぞれ1件ずつ検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの6件で、5件からA群溶血性レンサ球菌が検出されました。その血清型はT1、T4、T12、TB3264でした。定点以外の医療機関からは、B群溶血性レンサ球菌が3株と *legionella pneumophila* が2株検出されました。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(4月)

感染性胃腸炎							
検査年月		4月			2011年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		0	2	3	1	16	7
菌種名							
赤痢菌						1	1
腸管病原性大腸菌							
腸管出血性大腸菌				1			2
腸管毒素原性大腸菌							
チフス菌							
パラチフスA菌						2	
サルモネラ				1			1
カンピロバクター							
黄色ブドウ球菌							
コレラ菌							1
不検出			2	1	1	13	2
その他の感染症							
検査年月		4月			2011年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		6	0	5	20	4	21
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1			6		
		T4			3		
		T6					
		T12			5		
		T13					
		T25			1		
		T28					
		T B3264			2		
		型別不能					
B群溶血性レンサ球菌				3			3
G群溶血性レンサ球菌							
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4	
バンコマイシン耐性腸球菌							15
髄膜炎菌							
<i>Streptococcus suis</i>							
<i>Corynebacterium ulcerans</i>							
<i>Legionella pneumophila</i>				2			2
セレウス菌							
破傷風菌							
不検出		1	0	0	3	0	1

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成23年3月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成23年4月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成23年3月のアクセス件数、アクセス順位及び平成23年4月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成23年3月)

平成23年3月の総アクセス数は、168,323件でした。主な内訳は、感染症56.1%、食品衛生11.9%、保健情報9.1%、生活環境衛生8.1%、検査情報月報5.3%、薬事1.1%でした。

(2) アクセス順位 (平成23年3月)

3月のアクセス順位(表1)は、第1位が「準備は万端? 災害用保存水」、第2位が「マイコプラズマ肺炎について」、第3位が「衛生研究所トップページ」でした。

第1位の「準備は万端? 災害用保存水」は、3月11日に発生した震災後の飲料水の不足や保存方法についての不安からアクセス件数が増加したものと思われる。

また、福島原発事故により、水道水中の放射性物質の含有量について指標を超えるのではないかと市民の不安もアクセス件数増加の一因と考えられます。

現在、本市では、3月19日より、市内の各浄水場の水道水について、1日1回放射性物質の測定を行い、その結果を、水道局のWEB (<http://www.city.yokohama.lg.jp/suidou/os/20110322153218.html>) で公開しています。

第2位の「マイコプラズマ肺炎について」は、季節による報告数の増減がさほど著しくないこともあり、年間を通じて常にアクセス数が多く、上位にランクインしています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たりの報告数は、第9週(2月28日~3月6日)以降減少が続いていましたが、第13週(3月28日~4月3日)に増加しています。

第3位は「衛生研究所トップページ」でした。

第4位は「ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について」でした。本市では、ポリオの予防接種を、1年に2回、春と秋(4月及び10月)に行政区の福祉保健センターで、定期接種を行っており、4月の定期接種を前に、アクセス件数が増加したと思われる。

第5位は「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」でした。国立感染症情報センターの報告によると、

表1 平成23年3月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	準備は万端? 災害用保存水	9,878
2	マイコプラズマ肺炎について	5,984
3	衛生研究所トップページ	4,307
4	ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について	3,398
5	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	3,380
6	ヘモフィルス・インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	2,847
7	横浜市感染症情報センター	2,691
8	サイトメガロウイルス感染症について	2,301
9	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,277
10	感染症発生状況	1,973

データ提供:総務局IT活用推進課

感染性胃腸炎の定点当たりの報告数は、第12週(3月21日～3月27日)に7.14と一旦減少しましたが、その後再び増加傾向となっています。感染性胃腸炎の患者報告数は、毎年11月から12月にかけて急増し、1月から2月をピークに3月から5月以降減少しています。近年の感染性胃腸炎の流行の特徴として、前半にはノロウイルスが後半にはロタウイルスが主に検出されています。

第6位は「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」でした。

ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)は、小児(ほとんどが5歳未満の幼児で発症し0歳児に多発)の細菌性髄膜炎の主要な原因といわれています。細菌性髄膜炎は、初期の診断が難しく、かかると治療が困難な疾患です。また、治療には、抗菌薬を使いますが、最近では、抗菌薬の効きにくいHibが増加しています。これらのことから、早い時期にワクチン接種を受けることが発症予防の効果につながると考えられます。

しかし、一部市町村でワクチン接種後の死亡例が発生したことから、厚生労働省は、平成23年3月4日に「小児用肺炎球菌ワクチン」及び「ヒブワクチン」接種を一時見合わせましたが、専門家の会議で評価を行った結果、安全性上の懸念はないとされたため、厚生労働省の決定に基づき、横浜市においてもワクチン接種を平成23年4月1日から再開しています。

(3) 電子メールによる問い合わせ (平成23年4月)

平成23年4月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成23年4月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
ミネラルウォーター中のホルムアルデヒドについて	1	検査研究課
破傷風トキソイド接種可能な医療機関について	1	感染症・疫学情報課
コチニールの購入方法について	1	感染症・疫学情報課
サイトメガロウイルス感染症について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事 (平成23年4月)

平成23年4月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 平成23年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月 1日	感染症法の一部改正に伴う【届出基準・届出様式】の変更	更新
4月 1日	感染症に気をつけよう(4月号)	追加
4月 4日	咽頭結膜熱について	更新
4月 7日	衛研 Q&A -ロタウイルス編-	追加
4月 7日	横浜市インフルエンザ流行情報 12号	追加
4月11日	肺炎球菌感染症について	更新
4月22日	アデノウイルス感染症について	更新
4月25日	英字略語集	更新

【 感染症・疫学情報課 】